竜門社創立 140 年　企画展

青淵先生（渋沢栄一）を伝える

雑誌図書

2026年
10月1日［木］～11月23日［月・祝］
10時～17時

＊最終入館は16時30分

入館料：一般500円（400円）／小・中・高100円（80円）
＊（　）内は20名以上の団体料金
＊11月8日（日）は無料入館日

主　催：公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

竜門社創立140年
企画展

青淵先生（渋沢栄一）を伝える 雑誌図書

私たち公益財団法人渋沢栄一記念財団の前身、竜門社は一八八六年（明治一九）、東京・深川の青淵先生（渋沢栄一）宅に暮らした書生たちの勉強会を起源に創立されました。今年は創立から一四〇年にあたります。

創立間もなく、竜門社は社員たちが論説を発表し、活動を周知する『竜門雑誌』の刊行を開始しました。竜門社の拡大とともに『竜門雑誌』も内容・体裁を変え、経済界の動向や会員の動静、そして青淵先生の思想や動静を伝える雑誌へと発展しました。

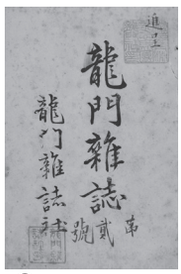
竜門社は一九〇〇年（明治三三）に『青淵先生六十年史』、一九二八年（昭和三）には『青淵先生訓話集』など、青淵先生やその事績・思想を社員や世の中へと伝えるさまざまな図書を編集・刊行してきました。

青淵先生の没後に開始した伝記資料編纂事業の成果は、渋沢青淵記念財団竜門社編『渋沢栄一伝記資料』（本編五八巻・別巻一〇巻）として一九七一年（昭和四六）年までに刊行され、雑誌は現在も『青淵』として続いています。

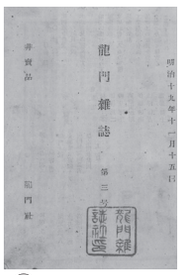
また、一九八二年（昭和五七）に渋沢史料館を開館、そして二〇〇二年（平成一四）に研究部（現・研究センター）、翌年に実業史研究情報センター（現・情報資源センター）を開設して、展示図録や講演・シンポジウムの記録集など、活動に応じた多様な図書を刊行してきました。

当財団の歩みは、青淵先生を想い、そして青淵先生にまつわる情報を、共有・発信し続けてきた歴史です。一四〇年という節目に、この活動を振り返ります。

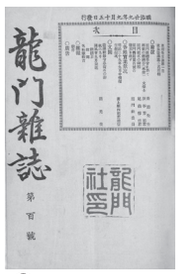
「青淵先生」とは？
渋沢家の書生や竜門社の人びとは、敬意と親しみを込めて渋沢栄一を「青淵先生」と呼びました。本展示でもこれにならい、「青淵先生」と表記します。



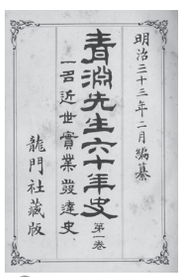
①



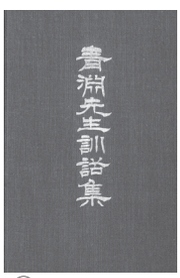
②



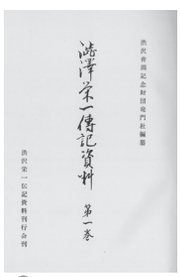
③



④



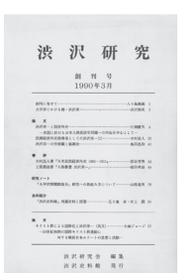
⑤



⑥

⑦

⑧



⑨

⑩

⑪

⑫

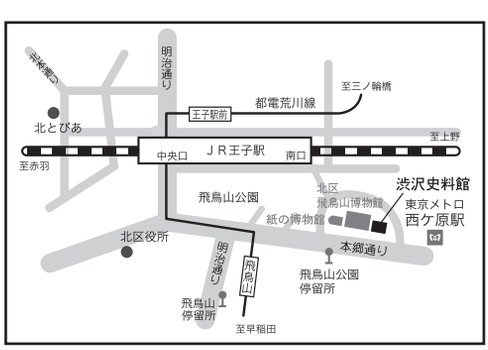
①『竜門雑誌』旧2号（竜門雑誌社、1886年7月）、②『竜門雑誌』旧3号（竜門社、1886年11月）、③『竜門雑誌』100号（竜門社、1896年9月）、④竜門社編『青淵先生六十年史 一名近世実業発達史』第1巻（竜門社、1900年）、⑤『青淵先生訓話集』（竜門社、1928年）、⑥渋沢青淵記念財団竜門社編『渋沢栄一伝記資料』第1巻（渋沢栄一伝記資料刊行会、1955年）、⑦渋沢秀雄『渋沢栄一』（渋沢青淵記念財団竜門社、1956年）、⑧矢野功作画・渋沢史料館監修『学習まんが 人間渋沢栄一』（国書刊行会、1988年）、⑨渋沢研究会編『渋沢研究』創刊号（渋沢史料館、1990年）、⑩公益財団法人渋沢栄一記念財団編『渋沢栄一を知る事典』（東京堂出版、2012年）、⑪『澁澤倉庫株式会社と渋沢栄一 信ヲ万事ノ本ト為ス』（公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館、2012年）、⑫『渋沢栄一の"美事なる図書室"』（公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館、2026年）

渋沢栄一の命日特別企画「青淵忌」の企画展関連イベント

担当学芸員によるギャラリートーク　11月8日　14時より（20分程度）
※申込不要。開始時間に企画展示室前にご集合下さい。

公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

〒114-0024 東京都北区西ケ原 2-16-1（飛鳥山公園内）
電話：03（3910）0005
https://www.shibusawa.or.jp/museum

JR京浜東北線王子駅南口／徒歩5分
東京メトロ南北線西ケ原駅／徒歩7分
都電荒川線飛鳥山停留場／徒歩4分
都バス飛鳥山停留所／徒歩5分
北区コミュニティバス飛鳥山公園停留所／徒歩3分

＊駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。